



## 海外から 研修員に聞く



デズモンド・

セレーロさん

(ボツワナ共和国)  
Mr. Desmond Serero  
環境・野生生物・観光省、  
森林・動物資源局、  
地区コーディネーター  
(チョベ国立公園)

### JICA札幌「アフリカ地域 森林エコツーリズムの推進による地域経済活性化」コース(2007年3月28日～4月22日)で研修

#### アフリカ南部の国、ボツワナ

「国名はボツワナBotswana、人はモツワナMotswana(又は、セツワナ)人、言葉はセツワナSetswana語といいます」と、まず、デズモンドさんは説明してくれた。人口181万5千人のうち、ツワナ(セツワナ)族が8割を占め、ほかにカランガ族1割、バサワ、ガラガディ族、白人など。「乳幼児の死亡率が高く、平均寿命が平均で50.5歳ですが、15歳以下の人口だけで全体の43パーセントを占めている国です」と国の前途に期待感をのぞかせていた。

1966年にイギリスから独立した。母語はセツワナ語だが公共機関、ビジネス、学校で使う公用語は英語で4歳から幼稚園で英語を学び始める。



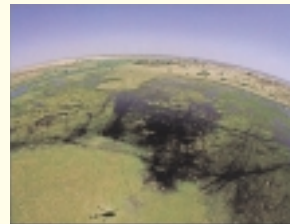
#### ボツワナの誇る大自然

ボツワナの国土面積、58.2万平方キロメートル(日本の約1.5倍)の84パーセントはカラハリ砂漠である。概ね平坦で、一番高い地点、西北部のツォディロ山(1489メートル)からなだらかに起伏して大砂漠に至る。

“ボツワナ北部に行くと、大地の活動を体感することができる、軽い地震を含めて”、と観光パンフレットには書いてある。この地域はアフリカ大陸東部を南北に走っている大地溝帯リフト・バレーの南端にあたる。この地域の広大な沖積扇状地オカバンゴ・デルタはこの地殻変動によって形成されたと言われ、隣りのアンゴラに降った雨が多くの枯れ川や沼沢地を

通じてオカバンゴ川に流れ込み湿地帯を作っている。オカバンゴ川は海に流れ込むことなく、この辺り一帯に滞留している。その水量が育てた周辺の森林や草原がチョベ国立公園はじめ数カ所の国立公園や猟鳥獣繁殖保護林(禁猟区)として保護されてきたが、今、ボツワナではこうした地域を観光地として開放することを目指している。

「すでに、こうした保護林に立ち入るのは許可制になっていますが、今後観光客を呼び入れる場合、どのような問題があるのか学ばねばなりません」、デズモンドさんは今回、森林保全を中心に観光のあり方を研修した。



広大な湿地帯の一部の鳥瞰写真  
(デズモンドさん提供の冊子から)

#### 「エコツーリズム」って何?

たとえば、観光地にホテルができて宿泊客が大量の水を使うと、大量の地下水のくみ上げが必要になる。その排水は?上下水道が整備されないと、周辺の川や海を汚染することになる。観光地の整備のために地元民の生活が脅かされることはないか、等考慮しなければならぬことは多い。



地元の自然について学ぶ少女  
(デズモンドさん提供の冊子から)

森林を中心とした観光プロジェクトが森林破壊をもたらさないか。地元の手つかずの大自然を持続可能な資源として地元が自らの地域産業に生かしていくことが求められている。旅行者も環境の保全を心がけながら観光地としての魅力を体験したい。日本エコツーリズム協会のホームページにはエコツーリズムの概念を定義づけするのに、旅行者・地域住民・観光業者・研究者・行政などがそれぞれの立場で協力することの必要を唱えている。

(日本エコツーリズム協会 <http://www.ecotourism.gr.jp>)

#### 「このコースを続けてください」

「国の若いスタッフをどんどん送りこみたいのでこれからもこのコースの継続を是非お願いしたいと思います」と話す言葉に熱意がこもっていた。今回の研修で道内の自然や観光地を視察した。「日程がきつい面もあったが、いろいろ知識を増やせてよかった。10人くらい学生を連れて回ってみたいと思いました」。

通貨はPula 1 Pula=5.85米ドル(2006年現在)

## NRCニュース

### 「北方圏センター通常総会」を開催

(平成19年5月29日)

平成19年度「通常総会」を開催し、平成18年度の事業実績報告ならびに収支決算、平成19年度事業計画ならびに収支予算が承認された。

また、この総会の中で、理事の一部補充選任が行われ、昨年度(財)北海道海外協会が北方圏センターと統合されたことに伴う理事4名が選ばれた。

総会終了後、「会員交流パーティ」が開かれて、会員はじめ在札のロシア連邦総領事、中華人民共和国総領事、大韓民国総領事ら来賓、関係者多数が出席して、和やかに懇談した。(交流部、総務部)

### 北海道海外技術研修員・通訳員養成研修員ら、所定の研修を修了

(平成19年3月20日)

北方圏センターが受け入れていた南米諸国からの技術研修員4名と通訳員養成研修生それぞれが所定の研修期間を終え、3月20日(火)、修了式に臨んだ。各自、研修で深めた専門分野における知識や技術、積丹町での子供たちとの交流や雪まつり等の北海道の思い出、さらに友人との楽しい日々を胸に、10ヵ月ぶり(通訳員養成研修生は9ヵ月ぶり)に故国へ向けて帰国の途についた。(国際協力部)

## 7月20日夜、「カルチャーナイト2007」を開催します

夏の夜の恒例行事になった、「カルチャーナイト」に今年も参加します。

カルチャーナイトとは公共・文化施設や民間施設を夜間開放して、市民が地元の文化を楽しむ行事で、各施設がもっている専門分野や持ち味を生かした文化プログラムを提供します。北方圏センターでは、札幌在住の駒ヶ嶺ゆかりさんによる「北欧の夏をうたう」、「ノルウェー・オンライン・ミーティング」、「世界の民族衣装を着てみよう」、「世界の遊びを体験しよう」などを予定しています。

午後5時半開始。

(北方圏センター、札幌国際センター)